

## 一宮運輸

一宮運輸(増田幸徳社長、愛媛県新居浜市)は自動車輸送と酒類などの配送の2部門で、自動配車システムを活用している。配車の属人化を解消、配車時間短縮や稼働率向上などに効果があり、他部門への導入も進める計画だ。

最初は、4年前、大阪府泉大津市の物流センターで25台のキャリアカーを使った自動車輸送にライナロジクス(朴成浩社長、千葉県市川市)の「ライナ2」を取り入れた。多種多様な車両を1日当たり1000~2500台程度扱い、輸送ルートは車両保管拠点から約90カ所の販売店や車検場など日々複雑に変動。新車と中古車の積合せは不可で、引き取りや納車の時間指定も常に流動的なため、配車は至難の業だった。

導入後は、配車時間の短縮と業務の標準化に成功。配車時間の短縮は1日1時間程度だが、輸送ルート選定の精度が上がり、2往復

# 時短&業務標準化に成功

しかできなかったキャリアカーが3往復できるようにするなど多面的な効果をもたらした。

2019年春には高松市の流通センターで、酒類や菓子などを量販店など150カ所に配送する業務に「ライナクラウド」を採用した。配送ルートが固定されている一方、物量の波動が常にあるため車両と荷物のマッチングを調整しつら

かったのがきっかけ。配送業務の属人化と、手書きによる配送指示書作成の手間も課題だった。

同システムは、荷主から送られてきた注文データを加工して最適な配車を組み、配送指示書を作成。業務を終えたドライバーが、マニュアルに基づいたボタン操作だけで完結できる。導入後は稼働車両が5台から4台に減り、ペテラン担

当者が不在でも配車が組めるようになった。

増田社長は「自動車輸送は極めて煩雑で、最後は手動で配車を完成させている部分もある。また、流通のシステムは全体最適で配車を組むため、一部の車両に負荷が掛かるケースがある。自動配車結果の精度向上と、自動配車後の修正作業の標準化を図っていく」と説明。今後は冷凍食品の店舗配送や、大型車両の幹線輸送にも導入していく構えだ。

(矢野孝明)

注文データを加工して最適な配車を組める

